



「地球温暖化防止」～ 私たちにできること ～

北海道地球温暖化防止活動推進員 岡崎 朱実

1. 始まっている地球温暖化の影響

ホッキョクグマの生息数が、50年後には、1/3に減ってしまうのではないかとされています。その理由は、北極の海氷が年々、減少しており、氷の上で狩りをするホッキョクグマにとっては、非常に過酷な状況になるからです。

温暖化は、単に温度が上がるというだけではありません。今までの気候のパターンが変わることで、大雨が降る地域があったり、逆に雨が降らない干ばつが頻発する地域があったりすると言われています。その結果、水不足や洪水、農作物の生産量の低下を始めとした、大きな被害が予想されています。

2. 温暖化の原因は？

二酸化炭素などの温室効果ガスの増加が、温暖化の原因の一つだと言われています。地球は、太陽の熱であたためられ、その熱は赤外線という形で宇宙に放出されるのですが、温室効果ガスは、熱をためる性質があり、その増加によって、地球が温まってしまうのです。

先進国が温室効果ガスを減らすことを約束した京都議定書では、日本は、温室効果ガスを1990年レベルとくらべて6%減らすことを約束しました。その第1約束期間が4月から始まっています。

では、6%減らせば、温暖化が止まるのかというところではありません。温暖化を止めるためには、世界全体の排出量を半分以下にしないといわれています。ですから、6%というのは、始めの一步に過ぎません。けれども、日本の温室効果ガス発生量は、1990年レベルより、増えてしまっています。減らすためには、より一層の努力が必要なのです。

3. 私たちの暮らしと温暖化の関係

私たちの暮らしには、エネルギーが不可欠ですが、そのエネルギーを作るための石油や石炭、天

然ガスなどの化石燃料の消費によって、二酸化炭素が発生します。つまり、私たちの暮らしのほとんどの場面で、温室効果ガスが発生していると言えるのです。

でも、逆の言い方をすると、温室効果ガスを減らす方法は、実にたくさんあるとも言えます。

4. 私たちにできること～こまめな努力？

7年前に政府は、「コマメちゃん」という地球温暖化防止のPRキャラクターを作り、いろいろな場面で広報しています。例えば、「冷暖房はコマメに1℃控えよう」とか、「シャワーを1日1分コマメに節水」とか「テレビは見たい番組だけ選んでコマメに節約」など10の取り組みが、「みんなのできる10のコマメ」として提唱されています。

必要以上に涼しかったり、暖かすぎたりするのは、確かにムダで、適度な室温設定や、衣服の工夫などで、エネルギーの節約をすることは大切です。省エネは、光熱費や暖房費の節約にもなり、家計にとってもプラスになるので、できる範囲で取り組んでいくことは大切です。

また、シャワーの時間を1分減らすというのは、テレビを見る時間を1時間減らす場合の、1.5倍くらいの二酸化炭素削減効果があるので、是非多くの方に実践していただきたいことです。

でも、PRだけで、どれだけの効果があるでしょうか？また、個人の努力だけで、どれだけの効果があるのでしょうか？

5. 仕組みの重要性

「10のコマメ」には、「主電源を切ってコマメに節約」という取り組みもあげられています。これは、ムダな待機電力を減らすための取り組みです。この待機電力というのは、テレビなどをリモコンで操作できるように待機している間など、実際に使用するためではない時に消費される電力

のことで、最近、実践している方も、待機電力量の少ない家電製品も増えています。

主電源をコマメに切るということをして全ての人実践する、というのは、なかなか難しいことですが、家電製品の待機電力量自体が減れば、普通に使っても、省エネになりますから、効果は大きくなります。つまり、個人の努力よりも、仕組みを変えることの方が効果が大いのです。

その良い例が、トップランナー制度と省エネラベルです。トップランナー制度というのは、テレビやエアコン、照明器具など、家庭の消費電力量に占める割合の高い機器の省エネ性能を、一定年度までに、基準設定時の一番高性能のもの以上にするようメーカーに求めるという制度です。この制度の結果、テレビは25%、ビデオは73%、エアコンは68%の省エネ性能の向上があったと報告されています。

6. 私たちにできること～連携の力

トップランナー制度は、メーカーに向けた制度ですが、消費者にその性能を知らせるために「省エネラベル」が作られています。これは、トップランナー基準を満たしていれば、緑のeマークで100%と表示されるもので、その性能が高いものは数字が大きくなるというものです。この省エネラベルは、2000年に導入されたのですが、一般にはなかなか知られていませんでした。

それをもっと市民にわかりやすくすることで、省エネを進めようという動きが東京と京都で始まりました。省エネ性能を5段階評価で示すとともに、10年間の電気代を表示して、消費者が省エネ家電を選びやすいようにしたのです。省エネ家電は、販売価格は高めですが、ランニングコストは安いので、総合的に判断するとお得になることも多いのです。そのことを消費者に知らせて、省エネの効果を高めようというこの東京と京都の取り組みは、その後、全国の市民団体や自治体の連携で広がり、今は、国の制度として、「統一省エネラベル」となっています。このように、国の仕組みに、市民の視点や知恵が加われば、より効果的な取り組みが実現します。

7. 環境への負荷の少ない社会を作るために・・・

今日は6月21日、夏至の日で、1年中で一番昼が長い日です。夏至の日の夜8時から10時までの2時間、電気を消して、スローな夜を過ごそうというのが、「キャンドルナイト」です。2003年から、東京の「100万人のキャンドルナイト」が呼びかけて、毎年行われ、たくさんの方が参加しています。札幌では、2004年に、市内で行われているキャンドルナイトを集約して広報することで、より多くの人に伝えようと、札幌市と市民、企業、市民団体が実行委員会を作って活動しています。毎年、いろいろな団体やレストランでキャンドルの灯りの下、コンサートや朗読会が開かれたり、飲食店では、普段と違って、明るさを落として、キャンドルの明かりでお料理が提供されています。

電気を消すことで、大切なことに気づいたり、それぞれの場所で、環境への思いを共有できるこの取り組みは、環境への負荷の少ない社会を作っていくきっかけの一つになると思います。

皆さんも、電気を消して
スローな夜を過ごしてみませんか？

参考 URL

全国地球温暖化防止活動推進センター
<http://www.jccca.org/>

(財)北海道環境財団
(北海道地球温暖化防止活動推進センター)
<http://www.heco-spc.or.jp>

省エネルギーセンター
<http://www.eccj.or.jp/>

日刊温暖化新聞
<http://daily-ondanka.com/>